

岡山・真備で大規模浸水

福井・日之出

義援金を募集持参へ

「友達が心配」「少しでも力になりたい」。西日本豪雨で大規模な浸水に見舞われた岡山県倉敷市真備町地区の箭田地区と福井市日之出地区は、14年にわたって交流を続けており、日之出地区の住民や子どもたちは連日のニュースに心を痛めている。同地区は11日、住民を対象に義援金の募集を開始。要望や受け入れ態勢を確認した上で、現地でのボランティア活動や物資の支援も行いたいと考えた。

(大久保直輝) 【1面に本記】

絆14年「力になりたい」

箭田地区と日之出地区は、2004年10月に福井市で開催された「まちづくり全国交流大会」をきっかけに交流。それぞれのまちづくり協議会(まち協)が主体となり、住民らが年度ごとに交互に訪問している。今年2月には箭田の小学生ら約30人が1泊2日で真内を訪れ、日之出の子どもたちとスキーを楽しむなど親交を深めた。今月14、15日には日之出のまち協会員らが箭田で開かれる踊りのイベントに参加し、福井国体などをPRする予定だった。



「友達か心配」「少しでも力になりたい」と伝えた。美校長(57)が交流の歴史や箭田の被害を全校児童に説明し、日之出小では9日、吉田和太郎(67)が具体的な支援策を話し合い、各自自治会を通じて義援金を募ることを確認した。同公民館に募金箱を設置したほか、今月28日の夏祭り

た。児童から「募金活動しよう」「励ましのビデオレターや手紙はどうか」「文房具を送ってほ」などと支援に向けた意見が上がった。今年2月の交流事業に参加した山田光輝君(6年)は「友達巻き込まれていないか心配」、松田郁海君(同)も「元気でいるかどうか知りたい」と不安そうに話した。

11日は山田会長と吉田校長、日之出公民館の前田誠一郎館長(67)が具体的な支援策を話し合い、各自自治会を通じて義援金を募ることを確認した。同公民館に募金箱を設置したほか、今月28日の夏祭り

でも協力を呼び掛ける。義援金は直接持って行く予定だ。山田会長は「何度も訪れている箭田は第二の古里のように、被災は人ごとではない。少しでも力になれば」と話している。

真備町地区では箭田などで川の堤防が決壊し、全家屋の半数に当たる約5千戸が浸水したとみられている。11夕方時点で49人の死亡が確認され、多くの人が自宅に帰れずにいる。



思いを背負う

「真備をなんとかせんとおえん」と書かれたシャツを着たきょうだい
=11日午後3時15分、岡山県倉敷市真備町地区

5000戸浸水 ほぼ解消 国交省

国土交通省は11日、西日本豪雨で小田川の堤防が決壊し、約5千戸が水に漬かった岡山県倉敷市真備町地区の浸水がほぼ解消したと発表した。

同省によると、7日午前には約1200戸が浸水した。中国地方整備局などのポンプ車23台が排水作業に当たり、11日午後、地区内のほぼ全ての住宅地や道路から水がなくなったという。